



聖なる光に照らされて

聖書から生まれた美



関西学院大学博物館

目 次

ごあいさつ	3
聖書による美と平和への祈り 神田健次	4
イエスの生涯 神田健次	10
聖書の印刷技術と美 水野隆一	14
図版	
聖書 聖なる光に照らされて	15
聖書から生まれた美 日本のキリスト教絵画	25
クリスマス切手 <i>Keep This Holy Fire Burning</i>	55
作品リスト	65

凡 例

- ・本図録は2014年12月1日(月)～2015年2月14日(土)まで開催する展覧会「聖なる光に照らされて 聖書から生まれた美」の図録である。
- ・本展覧会は神田健次(関西学院大学神学部教授)が監修した。
- ・作品番号は展覧会場の作品番号と一致するが、陳列順序とは必ずしも一致しない。
- ・展覧会期間中、作品の展示替えを行うため、本書に掲載されている作品が展示されていない場合もある。
- ・会場に展示した作品のうち、参考出品は図録に掲載していない。
- ・図版ページに掲載した作品情報は、作品番号、作品名称、作者あるいは出版地と出版者(または印刷者)、制作年、技法、寸法の順に記した。切手の作品名称については、発行地、使用絵画の作者がわかるものは作者名、絵画の名称、郵便料金を記した。また、同系統の切手に関しては名称の一部をまとめ、枝番号を付した。
- ・切手については、郵便切手類模造等取締法に基づき、図版に斜線を入れた。
- ・聖書の図版解説は、水野隆一(関西学院大学神学部教授)が担当した。
- ・写真撮影は深井純(関西学院大学博物館教育技術主事)が担当し、福本有寿子(関西学院大学博物館学芸アシスタント)、那須真弓(関西学院大学大学院文学研究科)が補助した。なお、作品番号36,37,38の画像は、神戸海事検定株式会社より提供をうけた。
- ・本書のブックデザインは秋山尚美(関西学院大学博物館)が担当した。
- ・本書の編集および構成は、高木香奈子(関西学院大学博物館学芸員)と福本有寿子、木場貴俊(関西学院大学博物館学芸アシスタント)が担当した。

本書に掲載した作品について、著作権所有者に連絡をとっております。お気づきの方は関西学院大学博物館までご連絡ください。

ごあいさつ

関西学院は、米国の南メソヂスト監督教会の宣教師W.R.ランバスによって1889年に創立され、現在まで一貫してキリスト教主義にもとづく教育がおこなわれてきました。第4代院長C.J.L.ベーツがのこした“Keep This Holy Fire Burning（聖なる光を灯し続けて）”は、クリスマスの季節に呼びかけられた言葉ですが、そこには平和に対する祈りも込められています。

本展覧会では、《ゲーテンベルク印行「42行聖書」》など本学の大学図書館が所蔵する貴重な聖書コレクションをはじめ、聖書の物語をテーマにした美術品の数々を展示いたします。渡辺禎雄の型染版画は、イエスの生涯を辿ることができるようになっています。その他にも小磯良平や田中忠雄、堀江優などキリスト教を受容した日本人作家が自らのものとして表現した作品をご覧ください。

また今回の展示では、世界のクリスマス切手を紹介します。聖母子、東方三博士の礼拝などクリスマスにふさわしい主題が選ばれるとともに、その切手が発行された地域色がにじみでています。

この時期、世界中で灯される聖なる光は、平和への祈りでもあります。世界が平和になりますように、そのような思いを込めた展覧会です。

関西学院大学博物館



渡辺禎雄の版画によるイエスの生涯

今回の展示では、関西学院所蔵の渡辺禎雄の型染版画を用いて、イエスの生涯の各場面をわかりやすく配置しているが、ここではもう少し補足しながらイエスの生涯をたどってみたい。なお記述にあたり、最古のマルコ福音書を基本にたどりながらも、版画に対応しつつマタイ、ルカ、ヨハネの各福音書に言及する。



1



2



3



4



5

- イエスの降誕物語
- 新約聖書の福音書に記されたイエスの生涯は、マタイ及びルカ福音書それぞれ1-2章に描かれているイエスの降誕物語、公生涯における「神の国」の宣教活動、そして最後のエルサレムにおける受難と復活物語に大別することができる。クリスマス物語として親しまれている最初のイエスの降誕物語は、ナザレの乙女マリアに天使が現れ、救い主誕生を告知するところから始まる。いわゆる《受胎告知》[挿図1]の出来事であり(ルカ1:28-38)、この出来事を通してマリアが神に高らかに賛美を捧げたのが「マグニフィカート」(ラテン語で「あがめる」と呼ばれるマリアの賛歌である。《降誕》[挿図2]は、ベツレヘムにおいて、「マリアは月が満ちて、初めての子を産み、布にくるんで飼い葉桶に寝かせた。」(ルカ2:6-7)と、ユダヤのベツレヘムの馬小屋で起こったことを伝えている。そして、この救い主誕生の知らせが最初に告げられたのが、野宿しながら夜通し羊の群れの番をしていた羊飼いに對してであり、《天使と羊飼い》[挿図3]の場面である(ルカ2:8-20)。天使は、「今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。」(2:11)と語っている。そして、「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。」(2:14)という天使たちの賛美が響き渡る。この「地には平和」という賛美の祈りが、クリスマスの重要なメッセージとなっている。この天使の知らせに従った羊飼いたちは、ベツレヘムへと駆けつけ幼子に礼拝を捧げているが、他方、マタイ福音書においては、東方から三人の博士たちが、星の不思議な導きによってベツレヘムの救い主を訪問し、贈り物を捧げ礼拝している(2:1-12、新共同訳聖書では「占星術の学者たち」)。社会の周辺で暮らす羊飼いや異邦世界に生きる博士に、クリスマスの喜びの出来事が真っ先に知らされた意味は、クリスマスを迎える大切な心の備えを語っている。マタイ福音書のクリスマス物語は、博士たちとの出会いを通して救い主誕生の知らせにユダヤの独裁的なヘロデ王は大きく動揺し、男子の幼子

6



7



8



9



10



11

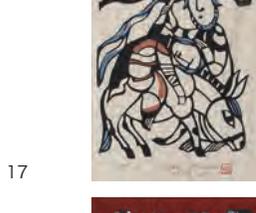
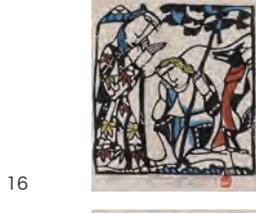


殺害という暴挙にでたことを描いている。しかし、天使の告知により博士たちは、「別の道を通って自分たちの国へ帰って行った。」(2:12)と記されている箇所から、型染版画の《三博士の帰還》[挿図4]では、博士たちが舟で帰還する姿が描かれている。さらに天使の告知により、聖家族が、ヘロデ王の脅威から避難するため、《エジプトへの逃避》[挿図5]の旅を強いられている(2:13-15)。ルカ福音書では、降誕物語の結びとして、幼子イエスを両親が神に捧げる儀礼のためにエルサレムの神殿に赴いた時、そこで老預言者シメオンが幼子を救い主と認め、幼子を抱きかかえて神を賛美しているのが、「ヌク・デイミティス」(ラテン語で「今こそ主よ」と呼ばれる《シメオンの賛歌》[挿図6]である(2:22-35)。

イエスの神の国の宣教活動

イエスは、父ヨセフの家業を長男として継いで大工の仕事をしていたが、30歳の時、神からの使命によって「神の国」の宣教活動を始める。その時点からイエスの公生涯と呼ばれるが、宣教の働きに先立って、イエスの登場の道備えとして預言活動を行い、ヨルダン川でバプテスマを受けていた洗礼者ヨハネからイエスは受洗している。その《受洗》[挿図7]の場面では、聖霊が鳩のように降ったと記されている(マルコ1:9-11)。さらに、この世のあらゆる誘惑の試練を経験するために、40日間荒野での誘惑者(サタン)からさまざまな誘惑を受けている(マタイ4:1-11)。

イエスの公生涯は、「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい。」(マルコ1:14-15)という呼びかけによって始まる。そして、神の国の宣教を共同で展開するために12弟子を招くが、ガリラヤ湖で漁をしていたシモン(ペトロ)とアンデレを最初の弟子として招いたのが《アンデレとシモンの召命》[挿図8]である(マルコ1:16-18)。イエスの神の国の宣教活動は、言葉による説教だけではなく、さまざまな振舞や行動によって推進されたが、福音書に報告されている多くの奇跡物語は、神の国を指し示す「しるし」として理解される。結婚式の祝宴の場で、ぶどう酒がなくなるという困窮した状況で、甕の水をぶどう酒に変えたという《カナの婚宴》[挿図9]の奇跡物語は、その一つである(ヨハネ2:1-11)。また、ガリラヤ湖で弟子たちと小さな舟に乗っていた場面で、いきなり突風に襲われ、激しい嵐で舟が遭難しそうになった危機的状況の中で、イエスが荒波を鎮めたという《嵐の中の舟》[挿図10]も奇跡物語である(マルコ4:35)。同じガリラヤ湖で漁を夜通し行ったが何も漁獲がなかった漁師たちに、イエスがもう一度沖へ舟を出して網を降ろしなさいと呼びかけ、半信半疑彼らが網を降ろしてみると網が破れそうになる



ほど大量の魚が獲れたという《奇跡の大漁》[挿図 11] の物語は、ルカ福音書ではシモン・ペトロなどを弟子としての召し出した物語として描かれている (5:1-11)。またイエスは、さまざまな病気や障がい者に苦しむ人々を癒されたという奇跡も、神の国のしるしとして行っているが、《盲人のいやし》[挿図 12] もその一つである (マルコ 5:22-26)。さらに、《パンと魚を用意するキリスト》[挿図 13] で描かれた、5000 人の人々の飢えを 5 つのパンと 2 匹の魚を祝して共に分かち合うことによって満たしたという奇跡物語 (マルコ 6:30-44) も、四福音書とも報告している物語として重要である。イエスの振舞で興味深いのは、子どもたちとの関係であり、《イエスと子ども》[挿図 14] では、当時社会的評価の低かった子どもたちを無条件に招き、「神の国はこのような者たちのものである」と語り、抱き上げて祝福していることである (マルコ 10:13-16)。

他方、イエスは、言葉によっても神の国を宣べ伝え、特に短い比喩的表現や譬え話を豊富に用いて、神の愛の働きを中心とした神の国の福音を語りかけている。《空の鳥を見よ》[挿図 15] はよく知られているもので、山上の説教において、イエスは、「空の鳥をよく見なさい。種も蒔かず、刈り入れもせず、倉に納めもしない。だが、あなたがたの天の父は鳥を養ってくださる」(マタイ 6:28) と、さまざまに煩って生きるあり方から解放され、神によるいのちの豊かさに開かれて生きるあり方を呼びかけている。また、《放蕩息子》[挿図 16] の譬え話では、父親から財産を受け取った息子が、都会の生活で放蕩の末それを使い果たし、疲れ果てて帰郷したその息子の姿を無言で抱擁して迎えた父の姿を通して、神の愛の無限の豊かさを語っている (ルカ 15:11-24)。あるいは、《よきサマリア人》[挿図 17] の譬え話では、強盗に襲われた旅人に温かい手を差し伸べたのは、祭司や律法学者ではなく、異邦のサマリア人の振舞であることを通して、神の愛に呼応する隣人愛の実践を呼びかけている (ルカ 10:30-37)。

イエスの受難と復活物語

イエスの生涯において、受難から復活にいたる物語は約一週間の出来事であるが、四福音書とも多くの頁を割いている。それだけ、イエスの生涯全体を集約するような重要な出来事であったと言える。受難物語は、イエスが多くの人々の歓呼の中を、平和の象徴である子ろばに乗ってエルサレムに入る《エルサレム入城》[挿図 18] の場面 (マルコ 11:1-11) から始まる。受難物語において重要な場面は、弟子たちとパンとぶどう酒によって《最後の晩餐》[挿図 19] を共にするところである (マルコ 14:12-25)。ヨハネ福音書では、この共同の食卓の場で、イエスは、自ら弟子



19

たち一人一人の足を洗うという《洗足》[挿図 20] の行為を通して、相互に愛し合う手本を示している (13: 2-14)。最後の晩餐を終え、イエスは弟子たちを伴い、オリーブ山の麓で受難の歩みを最終的に祈りにおいて決断する、いわゆる「ゲッセマネの祈り」を経験する。そしてその直後、弟子の一人のユダに裏切られて逮捕される。その後、イエスの裁判が行われるが、ユダヤとローマ帝国の法廷における二重の裁判を受けている。最初のユダヤの法廷では、イエスのこれまでの言動は神を冒瀆したとする瀆神罪として罪状がつけられる。さらに、もう一つのローマ帝国の法廷では、総督ピラトによって無罪とみなされるが、民衆の声を恐れたピラトは最後には十字架刑という最も重い判決を下すことになる。この間、弟子たちの多くは逃げ去ってゆき、ペトロは遠くからひそかに裁判の様子をうかがっていたが、周囲の人々に詰め寄せられ、ついにはイエスを裏切って逃げ去ってゆくことになる。



20



21

十字架刑が執行されるゴルゴタへの道を、イエスは十字架を負って上ってゆくが、その丘には三本の十字架がたてられ、両脇に極悪な犯罪を犯した二人の受刑者と共にイエスは《十字架》[挿図 21] にかげられ、兵士たちより軽蔑の言葉を浴びせられながら、最後の息を引き取った (マルコ 15: 20-41)。イエスの遺体は、ユダヤの慣習に従い手厚く埋葬され、母マリアをはじめ最後まで付き従った女性たちは深い悲しみに沈み、イエスを裏切って逃げ去った弟子たちも底深い絶望に陥ってしまった。しかし、イエスが葬られた三日目の朝、母マリアをはじめ 3 人の女性たちが墓へ出かけてみると、葬られたはずのイエスが蘇ったというイエスの《復活》[挿図 22] の出来事について、天使から語りかけられる (マルコ 16: 1-8)。マタイ福音書では、その直後、女性たちが喜びのあまり弟子たちに知らせようとして急いで立ち去ると、途中で復活のイエスが彼らに顕現し (28: 8-10)、またルカ福音書では、エマオへの道を急ぐ二人の弟子たちに顕現し、弟子たちの歩みに同伴する姿が描かれている (24: 13-35)。復活のイエスとの出会いは、イエスを裏切って絶望していた弟子たちに、新たな希望の道を拓く出来事であり、キリスト教のはじまりであった。

22



(神田 健次)

quia ipse inter fratres dividet. Addu-
cet urentem ventum dominus de deserto ascen-
dentem: et siccabit veritas eius: et desola-
bit fontem eius: et ipse diripiet thesau-
rum omnis vas desiderabilis.

Pereat samaria: quoniam ad amaritu-
dinem dereliquit deum suum. In gladio
pereat. Parvuli eius elidantur: et fete eius
siccantur. Convertere israel ad deum deum tuum:
quoniam corruisti in iniquitate tua. Tollite vo-
bis cornu verberum: et convertemini ad deum: et di-
cite ei. Omne aufer iniquitatem et accipe bo-
num: et reddemus vobis vitulos labiorum nostrorum.
Assur non salvabit nos. Super equum
non ascendent: nec dicent ultra viri nostri
opra manuum nostrarum: quoniam in te est mi-
serereberis populi. Sanabo stridones eorum:
diligam eos spem habentes: quia auersus est
furorem meum ab eis. Ego quasi ros. israel
germinabit sicut lilius: et erumpet radix
eius ut libani. Quasi rami eius: et erit qua-
si olivae gloria eius: et odor eius ut libani.
Converterent sedentes in umbra eius: vi-
vent tritico. Et germinabunt quasi vinea:
memoriale eius sicut vinum libani. E-
phraim quod michi ultra ydola. Ego
exaudiam et dirigam eum: ego ut ab-
ieram virentem: et me seculum eius inveni-
tus est. Quis sapiens et intelliget ista:
intelligens et sciet hec. Quia recte viae
domini et iusti ambulabunt in eis:
peccatores vero corruent in eis.
In apertio iohel propheta.

Quod factum est ad iohel fi-
lium fatuel. Audite
hec senes: et auribus
percipite omnes ha-
bitatores terre. Si

factum est istud in diebus vestris: aut in
diebus patrum vestrorum. Super hoc filijs
vestris narrate: et filij vestri filijs suis: et

filij eorum generationi altere. Residuum
cruce comedit locusta: et residuum locu-
ste comedit bruchus: et residuum bruchi co-
medit rubigo. Expegetis enim ebrj:
flete et ululate omnes qui bibitis vinum
in dulcedine: quoniam perijt ab ore ve-
stro. gens enim ascendet super terram meam:
fortis et innumerabilis. Dentibus eius
ut dentes leonis: et molares eius ut ca-
tuli leonis. Posuit vineam meam in deser-
tum: et ficum meam decorticavit. Audans
spoliavit eam et proiecit: albi facti sunt
rami eius. Plange quasi virgo accen-
da sacco: super virum pubertatis tue. Pe-
rijt sacrificium et libatio de domo domini:
luxerunt sacerdotes.

聖書

聖なる光に照らされて

Depulsa est regio: luxerunt homi-
nam devastatum est terram. Cotinum est
agricole: ululaverunt vinifices super feumen-
to vino et oves: quia perijt mellis agri.
Vinea confusa est: et ficus elanguit.
Malogranatum et palma et malum et om-
nia ligna agri aruerunt: quia confu-
sum est gaudium a filijs hominum. Ac-
tingite vos et plangite sacerdotes: ulu-
late ministri altaris. Ingredimini: cu-
bate in sacco ministri dei mei: quoniam
interijt de domo dei vestri sacrificium
et libatio. Sanctificate ieiunium: voca-
te eorum: congregate senes omnes habi-
tatores terre in domum dei vestri: et cla-
mate ad deum. A a a dies: quia prope
est dies domini: et quasi vastitas a poten-
te veniet. Nunquid non coram oculis ve-
stris alimenta perierunt: de domo dei
vestri leticia et exultatio. Computuerunt
iumenta in stercore suo. Demolita sunt
horrea: dissipatae sunt apothecae: quoniam
confusum est triticum. Quid ingemuit
animal: mugiunt greges armenti.
Quia non est pascua eis. Sed et greges



7 ラテン語時祷書 (写本)

The Book of Hours, in Latin (Manuscript)

15 世紀 16.7×11.8cm

時祷書とは、キリスト教信者が日常の祈りに際して使用した書物のひとつである。当時、修道院などで行われていた時祷 (Officium horarum、聖務日課、現在では「教会の祈り」) は、唱えられる詩編や祈りが日によって異なるなど、複雑なものであった。時祷書は、その複雑な聖務日課を容易に唱えることができるよう、編集されたものである。本書は 15 世紀に写本されたもので、ヴェラム (羊皮紙) にゴシック体で筆写されており、欄外装飾にはブルゴーニュ様式で、金・青・赤・緑によりアカンサスの葉・花・木の実が美しく描かれている。また、猿・鳥に加えて想像上の怪獣も描かれ

ていることが確認できる。本文中には聖書における「受胎告知」「聖母子」「エリザベト訪問」「羊飼い達へのお告げ」「占星術の学者たちの礼拝」「幼子イエスの奉獻」「ヘロデ王の幼児虐殺」「聖母の戴冠」「磔刑」「聖霊降臨」の物語がイニシャルの中に細密画 (ミニチュール) として描かれている。



8 ローマ式ラテン語時祷書

The Book of Hours, Use of Rome, in Latin

Paris/Gille Couteau for Guillaume/1513年 19.3×12.9cm

本書は、16世紀初頭のパリで印刷された時祷書である。時祷書の印刷は、それまでの手作業による15世紀の時祷書や聖務日課書などの写本制作法をもとに行われた。当時の最新技術によって一度本文が印刷された後に、写本の時祷書に似せるように手彩色や鮮やかな金箔装飾が施された。もはや一目では彩色写本との区別がつかない程に、美しい仕上がりとなっている。活字についてもヴェラム（羊皮紙）の上に写生による手書き文字を模したバタード体と呼ばれる書体で印刷され、聖書の特徴的な場面を描いた35点の銅版手彩色の細密画が収められている。冒頭の15ページ

にわたる暦の部分はフランス語で、それ以降はラテン語で書かれている。各月の聖人にまつわる暦には人生を12か月になぞらえて各月を比較した四行連詩が配置されている。



聖書から生まれた美

日本のキリスト教絵画



9 受胎告知 | 渡辺禎雄

The Annunciation | Sadao WATANABE

1992年 型染版画 34.0×27.3cm



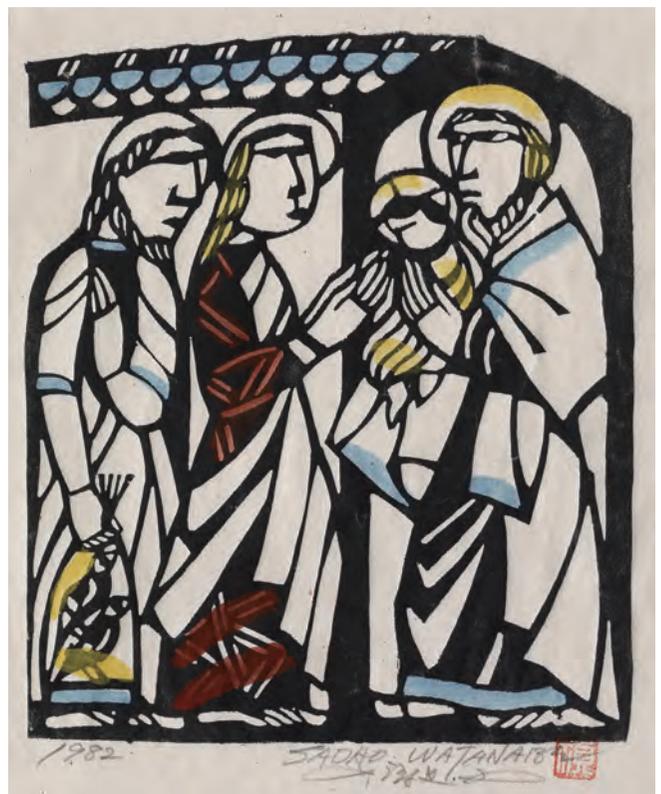
10 降誕 | 渡辺禎雄

Nativity | Sadao WATANABE

1973年 型染版画 55.5×42.2cm



11 御降誕 | 渡辺禎雄
Nativity | Sadao WATANABE
1967年 型染版画
19.3×16.2cm



12 シメオンの讃歌 | 渡辺禎雄
Nunc Dimittis | Sadao WATANABE
1982年 型染版画 23.8×20.0cm



34 エマオへの道 | 田中忠雄

Road to Emmaus | Tadao TANAKA

年不詳 油彩・カンバス 40.0×52.5cm



39 お前は、神の子、メシアなのか。 | 堀江優

Tell us if You are the Christ, the Son of God! | Masaru HORIE

1976年 水彩・和紙 112.0×145.5cm

A stylized stained glass illustration of the Nativity scene. On the left, a man with a beard and a crown (Joseph) is shown in profile, holding a large bundle. In the center, a woman (Mary) is seated, holding a baby (Jesus) in her arms. To the right, another woman (Mary Magdalene) stands, holding a gift. The background features a large, glowing circle representing the sun or moon. The entire scene is rendered in a teal color palette with white outlines, characteristic of stained glass art.

クリスマス切手

Keep This Holy Fire Burning

作品リスト

No.	作品名	出版地と出版者 (または印刷者) 或は作者	制作年	技法・材質	寸法 (縦×横 cm)	所蔵
聖書 聖なる光に照らされて						
1	グーテンベルク印行「42行聖書」(原葉2枚)	Mainz/Johann Gutenberg and Peter Schöffer	1455頃		35.9×26.5	関西学院 (大学図書館)
2	エラスムス校訂新約聖書 (初版)	Basileae/Ioannis Frobenij	1516		32.2×22.5	関西学院 (大学図書館)
3	エラスムス校訂新約聖書 (第2版)	Basileae/Ioannem Frobeni- um	1519		33.4×23.6	関西学院 (大学図書館)
4	欽定訳聖書 (初版初刷)	London/Robert Barker	1611		40.4×29.0	関西学院 (大学図書館)
5	多言語聖書	London/Thomas Roycroft	1657		45.5×29.8	関西学院 (大学図書館)
6	死海写本レビ記断片				2.5×1.0	関西学院 (大学図書館)
7	ラテン語時祷書 (写本)		15世紀		16.7×11.8	関西学院 (大学図書館)
8	ローマ式ラテン語時祷書	Paris/Gille Couteau for Guillaume	1513		19.3×12.9	関西学院 (大学図書館)
聖書から生まれた美 日本のキリスト教絵画						
9	受胎告知	渡辺禎雄	1992	型染版画	34.0×27.3	関西学院 (吉岡記念館)
10	降誕	渡辺禎雄	1973	型染版画	55.5×42.2	関西学院 (神学部)
11	御降誕	渡辺禎雄	1967	型染版画	19.3×16.2	関西学院 (吉岡記念館)
12	シメオンの讃歌	渡辺禎雄	1982	型染版画	23.8×20.0	関西学院 (吉岡記念館)
13	三博士の帰還	渡辺禎雄	1972	型染版画	68.7×50.9	関西学院 (初等部)
14	エジプトへの逃避	渡辺禎雄	1987	型染版画	53.0×63.5	関西学院 (大学図書館)
15	受洗	渡辺禎雄	1992	型染版画	34.0×27.4	関西学院 (吉岡記念館)
16	アンデレとシモンの召命	渡辺禎雄	1983	型染版画	23.0×20.0	関西学院 (吉岡記念館)
17	嵐の中の舟	渡辺禎雄	1985	型染版画	23.8×20.0	関西学院 (吉岡記念館)
18	カナの婚宴	渡辺禎雄	1984	型染版画	50.5×62.4	関西学院 (吉岡記念館)
19	空の鳥を見よ	渡辺禎雄	1992	型染版画	34.5×27.8	関西学院 (吉岡記念館)
20	イエスと子ども	渡辺禎雄	1992	型染版画	34.5×27.8	関西学院 (吉岡記念館)
21	奇跡の大漁	渡辺禎雄	1992	型染版画	62.3×52.3	関西学院 (大学図書館)
22	盲人のいやし	渡辺禎雄	1992	型染版画	34.5×27.8	関西学院 (吉岡記念館)
23	放蕩息子	渡辺禎雄	1983	型染版画	23.8×19.6	関西学院 (吉岡記念館)
24	よきサマリア人	渡辺禎雄	1979	型染版画	22.8×19.7	関西学院 (吉岡記念館)
25	ろばをささげる人	渡辺禎雄	1988	型染版画	23.5×18.5	関西学院 (吉岡記念館)
26	エルサレム入城	渡辺禎雄	1982	型染版画	80.7×60.5	関西学院 (吉岡記念館)
27	最後の晩餐	渡辺禎雄	1990	型染版画	52.7×68.7	関西学院 (初等部)
28	洗足	渡辺禎雄	1989	型染版画	60.7×50.7	関西学院 (吉岡記念館)
29	十字架	渡辺禎雄	1987	型染版画	25.0×18.5	関西学院 (吉岡記念館)
30	十字架	渡辺禎雄	1980	型染版画	62.5×55.5	関西学院 (吉岡記念館)
31	復活	渡辺禎雄	1992	型染版画	34.5×27.7	関西学院 (吉岡記念館)
32	ノアの方舟	渡辺禎雄	1987	型染版画	55.7×61.7	関西学院 (吉岡記念館)
33	聖書より	小磯良平	1960	油彩・カン パス	144.0×113.0	関西学院 (総務部)
34	エマオへの道	田中忠雄	年不詳	油彩・カン パス	40.0×52.5	関西学院 (吉岡記念館)
35	空の鳥を見よ	田中忠雄	1990	油彩・カン パス	59.0×79.0	関西学院 (中学部)
36	仰ぐ	堀江優	1989	水彩・和紙	80.3×31.8	神戸海事検定株式会社
37	幼子イエスと羊飼	堀江優	2006	水彩・和紙	45.5×53.0	神戸海事検定株式会社
38	幼子イエスと家族	堀江優	2011	水彩・和紙	116.7×91.0	神戸海事検定株式会社
39	お前は、神の子、メシアなのか。	堀江優	1976	水彩・和紙	112.0×145.5	関西学院 (高等部)
40	あの方は、ここにはおられない。	堀江優	1975	水彩・和紙	112.0×145.5	関西学院 (高等部)
クリスマス切手 Keep This Holy Burning						
41	バツレーム ジョット《キリストの降誕》 2000FILS		1999		5.2×3.7	個人蔵
42-1	ヨルダン《星を見つめる博士》 50FILS		1966		3.0×4.8	個人蔵
42-2	ヨルダン《旅する三人の博士》 5FILS		1966		3.0×4.9	個人蔵
42-3	ヨルダン《幼子への博士の贈物》 10FILS		1966		3.0×4.9	個人蔵
42-4	ヨルダン《聖家族のエジプト逃避》 35FILS		1966		4.9×3.0	個人蔵
43-1	パチカン 時祷書《受胎告知》 400		1995		3.9×2.9	個人蔵
43-2	パチカン 時祷書《幼子誕生》 850		1995		3.9×2.9	個人蔵
43-3	パチカン 時祷書《聖家族のエジプト逃避》 1250		1995		3.9×2.9	個人蔵
44-1	パチカン ジョット《キリスト降誕》 800		2000		2.8×3.8	個人蔵
44-2	パチカン ジョット《キリスト降誕》 1200		2000		2.8×3.8	個人蔵
44-3	パチカン ジョット《キリスト降誕》 1500		2000		2.8×3.8	個人蔵

44-4	バチカン ジョット《キリスト降誕》 2000	2000	2.8×3.8	個人蔵
45	バチカン《黒人のマリア》 L.100	1970	4.1×3.1	個人蔵
46	ウガンダ《キリスト降誕》 3.000/=	2003	4.3×2.9	個人蔵
47-1	ギリシャ《幼子イエスと三博士》 Δ ρ 2.50	1972	4.0×2.7	個人蔵
47-2	ギリシャ《幼子イエスと三博士》 Δ ρ 4.50	1972	4.0×2.7	個人蔵
48-1	ギリシャ《エジプト逃避》 Δ ρ 2	1974	4.0×2.7	個人蔵
48-2	ギリシャ《エジプト逃避》 Δ ρ 4.50	1974	4.0×2.7	個人蔵
48-3	ギリシャ《エジプト逃避》 Δ ρ 8.50	1974	4.0×2.7	個人蔵
49	キプロス《聖母子像》 250M	年不詳	9.0×11.0	個人蔵
50-1	キプロス《聖母子の元に向かう三博士と羊飼い》 50M	1971	4.0×2.4	個人蔵
50-2	キプロス《聖母子の元に向かう三博士と羊飼い》 10M	1971	4.0×2.4	個人蔵
50-3	キプロス《聖母子の元に向かう三博士と羊飼い》 100M	1971	4.0×2.4	個人蔵
51	ウクライナ《聖母子のイコンと天使》 120+10k	1999	5.0×3.2	個人蔵
52-1	チェコスロバキア デューラー《ロザリオの聖 母》 10Kcs	1988	5.5×4.5	個人蔵
52-2	チェコスロバキア デューラー《ロザリオの聖 母》 10Kcs	1988	5.5×4.5	個人蔵
53-1	オランダ レンブラント《天使のいる聖家族》 80c+5c	1981	4.5×2.9	個人蔵
53-2	オランダ レンブラント《聖家族》 80c+5c	1981	4.5×2.9	個人蔵
53-3	オランダ レンブラント《シメオンの預言》 80c+5c	1981	4.5×2.9	個人蔵
53-4	オランダ レンブラント《神殿内のシメオン》 80c+5c	1981	4.5×2.9	個人蔵
54	バチカン 堂本印象《栄光の聖母マリア》 L.55	1970	4.0×3.0	個人蔵
55-1	バチカン 小関きみ子《キリスト誕生》 L.10	1964	4.0×3.0	個人蔵
55-2	バチカン 小関きみ子《キリスト誕生》 L.15	1964	4.0×3.0	個人蔵
55-3	バチカン 小関きみ子《キリスト誕生》 L.135	1964	4.0×3.0	個人蔵
56-1	ダHOME共和国 藤田嗣治《受胎告知》 70F	1968	5.2×4.0	個人蔵
56-2	ダHOME共和国 藤田嗣治《キリスト降誕図》 30F	1968	4.0×5.2	個人蔵
56-3	ダHOME共和国 藤田嗣治《聖母子》 100F	1968	5.2×4.0	個人蔵
57-1	ポルトガル《南蛮屏風》 38.	1992	3.1×4.1	個人蔵
57-2	ポルトガル《南蛮屏風》 120.	1992	3.1×4.1	個人蔵
58-1	ドイツ《天使》 10+5	1971	3.3×2.8	個人蔵
58-2	ドイツ《天使》 20+10	1971	3.3×2.8	個人蔵
58-3	ドイツ《聖家族》 20+10	1972	2.8×3.3	個人蔵
58-4	ドイツ《イエスと三博士》 30+15	1972	2.8×3.3	個人蔵
59-1	ドイツ《天使と羊飼い》 100+50	1998	3.5×3.5	個人蔵
59-2	ドイツ《幼子イエス》 110+50	1998	3.5×3.5	個人蔵
59-3	ドイツ《天使》 100+50	1999	3.5×3.5	個人蔵
59-4	ドイツ《幼子イエス》 110+50	1999	3.5×3.5	個人蔵
59-5	ドイツ C.v. ゴースト《聖誕》 100+50/€0.51+0.26	2000	3.5×3.5	個人蔵
59-6	ドイツ《クリスマス物語》 110+50/0.56€+0.26	2000	3.5×3.5	個人蔵
60-1	スイス《リース》 60+30	1993	3.4×2.8	個人蔵
60-2	スイス《シダ》 60+30	1993	3.4×2.8	個人蔵
60-3	スイス《テマリカンボク》 80+40	1993	3.4×2.8	個人蔵
60-4	スイス《コケ》 100+50	1993	3.4×2.8	個人蔵
61-1	スイス《クリスマスツリーオーナメント・天使》 100	2004	3.4×2.8	個人蔵
61-2	スイス《クリスマスツリーオーナメント・雪の 結晶》 85	2004	3.4×2.8	個人蔵

61-3	スイス《クリスマスツリーオーナメント・木馬で遊ぶ子供》100	2004	3.4×2.8	個人蔵
61-4	スイス《クリスマスツリーオーナメント・教会》85	2004	3.4×2.8	個人蔵
61-5	スイス《クリスマスツリーオーナメント・サンタクロース》100	2004	3.4×2.8	個人蔵
62-1	フィンランド《サンタクロース》0.30	1973	2.5×3.5	個人蔵
62-2	フィンランド《トントゥ》0.35	1974	2.5×3.5	個人蔵
62-3	フィンランド《クリスマス切手》0.40	1975	3.5×2.5	個人蔵
62-4	フィンランド《そりで教会に向かう》0.50	1976	2.5×3.5	個人蔵
62-5	フィンランド《そりをひく子供》0.50	1977	2.5×3.5	個人蔵
62-6	フィンランド《トントゥ》0.50	1978	3.5×2.5	個人蔵
62-7	フィンランド《トントゥ》0.60	1979	2.5×3.5	個人蔵
63	セントビンセント・グレナディーン諸島 《子供たちのクリスマス》5c,50c,60c,\$1,\$2	1980	各4.8×3.2	個人蔵
64-1	ブラジル 子供達のクリスマス切手 《アンドレアのクリスマス》0.80	1976	3.8×3.8	個人蔵
64-2	ブラジル 子供達のクリスマス切手 《ジョアナのクリスマス》0.80	1976	3.8×3.8	個人蔵
64-3	ブラジル 子供達のクリスマス切手 《ホベルトのクリスマス》0.80	1976	3.8×3.8	個人蔵
64-4	ブラジル 子供達のクリスマス切手 《ジョゼのクリスマス》0.80	1976	3.8×3.8	個人蔵
64-5	ブラジル 子供達のクリスマス切手 《エリザベットのクリスマス》0.80	1976	3.8×3.8	個人蔵

謝 辞

本展覧会の開催ならびに本図録の編集にあたり、下記の方々から多大なご協力を賜りました。記して深く感謝申し上げます。(50音順・敬称略)

小磯美術クラブ
神戸海事検定株式会社
田中知雄
播磨 醇
堀江明子
渡辺達雄

本図録の編集にあたり、『関西学院創立 125 周年記念 大学図書館特別展示会 印刷技術と聖書～「読む」キリスト教への変容～』（関西学院大学図書館編 2014 年）を参照しました。

聖なる光に照らされて
聖書から生まれた美

2014 年 12 月 1 日発行

編集・発行 関西学院大学博物館
〒662-8501
西宮市上ヶ原一番町 1-155

印刷・製本 有限会社仁川印刷所

©KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY MUSEUM 2014